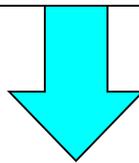


学校教育目標		
○すすんで学ぶ人になろう ○心ゆたかな人になろう ○社会につくす人になろう		

令和5年度学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<ol style="list-style-type: none"> 1 「確かな学力」を身に付けさせ、学ぶ愉しさを感じさせる。 2 様々な人々との協働や体験を通し、豊かな心を育てる。 3 自己有用感を育み、母校への誇りをもたせる。 4 開かれた学校を目指す。

指導の重点(各教科)
<ul style="list-style-type: none"> ・目標やめあてを明確にして見通しをもたせ、振り返りを通して学びの成果を実感させる授業を展開する。 ・体験的な学習の機会を確保し、学習グループの構成を工夫したりして、生徒一人ひとりが主体的・対話的に学習できるように指導する。 ・放課後学習教室や長期休業中の学習では、計画的に任期付短時間勤務教員や外部人材を活用した補充的な学習等の実施を行う。 ・習熟度別少人数授業を展開して基礎的・基本的事項の定着を図り、一人ひとりの生徒への課題に応じた支援を行う。 ・スクールカウンセラーや巡回相談員等の心理職から意見を取り入れながら、全教職員で共通理解を図り、ユニバーサルデザインや合理的配慮を提供する中で、個に応じた指導を実践する。 ・一人1台端末の活用による協働学習を展開し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ・適切な学習の課題の提示やニューノーマルの学習により、「個別最適な学び」の充実を図る。

指導の重点(総合的な学習の時間)
<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した指導計画に基づき、主体的・探求的な学習を通して自己の生き方を考えさせ、よりよい生き方を実践しようとする態度を育てる。 ・校外学習等を通して、体験的に課題解決を図る学習を展開する。 ・班別学習と、事前、事後学習を組み合わせた指導を行い、探求的な見方、考え方を働かせ、課題の設定および解決に向かう能力を育成する。



授業改善に向けた具体的方策		
基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
放課後学習教室や長期休業中の学習では、計画的に任期付短時間勤務教員や外部人材を活用した補充的な学習等の実施を行う。習熟度別少人数授業を展開して基礎的・基本的事項の定着を図り、一人ひとりの生徒への課題に応じた支援を行う。	習熟度別少人数授業を展開して一人ひとりの生徒への課題に応じた支援を行う。放課後学習教室や長期休業中の学習では、計画的に任期付短時間勤務教員や外部人材を活用した発展的な学習の実施を行う。	目標やめあてを明確にして見通しをもたせ、振り返りを通して学びの成果を実感させる授業を展開する。特に、形成的な評価の充実を図り、適切なフィードバックにより成果と課題を明らかにするとともに、指導改善を図るサイクルを確立する。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	ユニバーサルデザイン、合理的配慮	家庭・地域との連携
デジタル教科書、デジタル教材や学習アプリ等を中心に iPad を利用する機会を適宜設け、グループ学習や個別学習に活用する。単元によって、データの活用、観察、実技等の撮影で iPad を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図っている。	年度始めの会議や研修だけでなく、スクールカウンセラーや巡回相談員等の心理職から定期的に意見を取り入れながら、全教職員で共通理解を図り、授業の改善を行う。年間7回の校内研修のうち、3回を合理的配慮に関連する内容で実施し授業実践に反映させる。	学校公開や道徳授業地区公開講座等においてアンケートを実施し授業改善を図る。また、年2回実施する面談における相談機能の充実を図る。デジタル教材や学習アプリ等を中心に家庭でも一人1台端末を活用できるように、各教科で課題を設定する。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

【中学校】

国語科における指導の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・目標やめあてを明確にして見直しをもたせ、振り返りを通して学びの成果を実感させる授業を展開する。 ・導入等で生徒の学習意欲を高め、グループワークや学び合い活動を活用して主体的・対話的な学習を目指す。 ・漢字の学習や作文指導を継続的にを行い、読むことや書くことの基礎的な力を付ける。

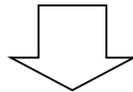
現状分析

区学力調査の結果分析

- (1年)校内達成率は66%だった。特に、聞き取りの問題の正答率が目標値より低く、改善が必要である。
- (2年)校内達成率は65.8%だった。文法や情報の扱いに関する領域について若干課題がある。
- (3年)校内達成率は75.8%だった。数値は良好であるが、言語文化に関する事項が目標値より低く、改善が必要である。

教科指導上の課題

- (1年)普段から落ち着いて話を聞く環境作りや、話の要旨をメモする習慣を継続的に指導をする必要がある。
- (2年)正答率が50%未満となった生徒の基礎学力を高める指導をする必要がある。
- (3年)歴史的仮名遣いについて補習を行い、古典作品を読み解く指導をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい単元に入る際、自分の知らない漢字や言葉の意味を自分の iPad を利用して調べる時間を設定する。 ・読解における文章のテーマや文法等の問題において、グループやクラス内で学び合いや教え合う場面を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や文法の小テストを行い、基礎的な力の定着を図る。 ・班活動やスピーチ、作文等の指導を通して伝える力を継続的に指導していく。 ・iPad を有効に活用し、個人で必要な知識や理解を深める場面を作る。
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から iPad を持参しているため、隙間の時間を使って Qubena を活用する。文法の問題を繰り返し復習し、理解を深める時間を設定する。 ・漢字の読み書きや文の構成の問題など、グループでの学び合いや教え合う場面を作り、協働的な学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に漢字の小テストを行ったり、作文を書いたりすることで知識や表現する力を定着させ、国語の基礎的な力を高めていく。 ・個人の苦手分野を効果的に克服していくために Qubena を意識的に活用していく。
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材とアナログ教材を併用し、生徒一人ひとりが学習方法や課題の提出方法を選択できるようにする。 ・スプレッドシートやジャムボードを活用し、個人の考えを全体に広げ、さらに考えを深める時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Qubena などの学習支援教材を用いて、各生徒が基礎的・基本的な学習内容を定着させる時間を設定する。また、小テストを行い、達成度をフィードバックし、さらなる学習につなげる。

(2) 社会科

【中学校】

社会科における指導の重点

- ・授業や単元の導入では、学習課題や本時の流れを明確に提示することで、学習に見通しをもたせる。
- ・ICT機器を活用し、協働的な学びの充実と基礎的・基本的な知識の向上を図る。
- ・現代社会に見られる課題を解決する学習を通して、社会的な探究をしようとする学習意欲の向上を図る。

現状分析

教科指導上の課題

(1年)

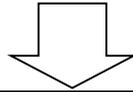
- ・一斉での作業や考察活動では、一人ひとりの能力に差があり、基礎的な知識や学習習慣の定着は個人によって差が大きい。
- ・自分で考え、表現する力を身につけさせるために、指導の工夫が必要である。

(2年)

- ・一斉での作業や考察活動では、一人ひとりの能力に差があり、基礎的な知識や学習習慣の定着は個人によって差が大きい。
- ・資料を用いて多面的・多角的に物事を考察できる生徒とそうでない生徒の差がある。

(3年)

- ・基礎的・基本的な内容の定着に差が見られるため、基礎学力の底上げを図る指導の工夫を図る。
- ・社会的事象の相互関連について追究する力を身に付けさせるために、指導の工夫が必要である。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">・振り返り&見通シートを活用し、単元のまとめに自己の学びを文章で表現する活動を取り入れ、根拠をもって自己の考えを述べる機会とする。・指導用デジタル教科書で、グラフや図を凡例ごとに示す機能を活用し、視覚的に理解しやすくなるように工夫する。	<ul style="list-style-type: none">・単元ごとに知識の定着を確認するワークやテストを行うと共に、放課後に再テスト・補充学習の機会を設ける。板書の色や書き方、資料の提示など、特別な配慮を要する生徒への工夫を講じる。・授業の中で対話的な学びの場をできるだけ多く設定し、ICT機器の活用も含めてお互いを高め合う場面を設定する。
2年生	<ul style="list-style-type: none">・振り返り&見通シートを活用し、単元のまとめに自己の学びを文章で表現する活動を取り入れ、根拠をもって自己の考えを述べる機会とする。・指導用デジタル教科書で、グラフや図を凡例ごとに示す機能を活用し、視覚的に理解しやすくなるように工夫する。	<ul style="list-style-type: none">・単元ごとに知識の定着を確認するワークやテストを行うと共に、放課後に再テスト・補充学習の機会を設ける。板書の色や書き方、資料の提示など、特別な配慮を要する生徒への工夫を講じる。・授業の中で対話的な学びの場をできるだけ多く設定し、ICT機器の活用も含めてお互いを高め合う場面を設定する。
3年生	<ul style="list-style-type: none">・単元シートを使用し、学習内容を個人で振り返る機会を設ける。単元末には、自己の学びと社会的事象との関連を考える問いを設ける。・指導用デジタル教科書で、グラフや図を凡例ごとに示す機能を活用し、視覚的に理解しやすくなるように工夫する。・Googleのスプレッドシートやジャムボードを活用し、他者の考えを基に自己の考えを形成する学習に取り組む。	<ul style="list-style-type: none">・単元シートでは振り返りの内容を添削し、誤った認識が多い場合には授業内で確認する。・定期的に小テストを実施したり、Qubenaを活用したりすることで、基礎的・基本的な内容の定着を図る。

(3) 数学科

【中学校】

数学科における指導の重点

- ・目標やめあてを明確にして生徒に授業の見通しをもたせるとともに、振り返りを行うことで、学びの成果を実感できる授業の展開を行う。
- ・繰り返し復習を行う機会をつくとともに、工夫のある授業の実施により、学習習慣を身に付けさせ、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させる。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学習意欲を向上させる指導法の工夫についての理解を深めることで授業改善に努める。

現状分析

区学力調査の結果分析

- ・(1年)校内達成率は67.9%で、特に「小数・分数の計算」の категорияは目標値差-4.2%であるため改善に取り組む必要がある。
- ・(2年)校内達成率は80.7%と目標値70%を超えており、おおむね良好な状況である。領域別についてもすべて目標値を超えている。
- ・(3年)校内達成率は58.2%で、自校他学年より低く、特に、「図形」「証明」の категорияは5%~10%目標を下回り課題がある。

教科指導上の課題

- ・(1年)「小数・分数の計算」を中心とした既習事項を使う際に都度確認を行うことや、AIドリルなどを活用することで定着を図っていく。
- ・(2年)達成率20%以上50%未満の層の基礎学力の底上げを図る指導の工夫を図っていく。
- ・(3年)「関数」「図形」では映像やデジタル資料だけでなく、実物を具体的に提示したり、操作させたりしながら、学力の定着を図っていく。

授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">・一人1台端末の利点を活かしQubenaを活用し、個別最適化された問題に取り組ませることで潜在的な苦手分野を減らしていく。また教科書のDマークコンテンツなどを中心に、静的ではなく動的な教材を活用することで、数学を苦手としている生徒の理解を補助する。・主に章の導入などでグループでの協働的な活動を行い、数学的な見方・考え方を働かせ課題解決を図ろうとすることで、その特徴や概念について自分の考えを深めさせる。	<ul style="list-style-type: none">・毎授業始めの5分間で過去の誤答からの復習問題を含んだAIドリル(Qubena)を実施することで、苦手な分野を減らすとともに基礎力を高めていく。また、各生徒の実施状況などを日々確認し、誤答の多い問題については改めて説明するなどして定着を図っていく。・単元テストや定期テスト後の解き直しに加え、同等レベルの再テストを行うことで、自らの学習の調整(誤答を調べ、理解、練習)をすることを促し、学びに向かう力を育む。
2年生	<ul style="list-style-type: none">・Qubenaや教科書のDマークコンテンツなどを中心にiPadを利用する機会を適宜設けていく。特に「データ比較」では、グループ毎に多数のデータをiPadを利用して傾向を比較し、考察させ、協働的に課題解決を図ることで「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図っていく。・日常の授業の中での教え合いの活動やいろいろな考え方を説明、共有する活動の場面を増やし、章に1回程度グループでの課題解決の活動を入れていく。	<ul style="list-style-type: none">・1年次から継続してきた毎授業始めの3分間ドリルで、既習の計算演習や関数、図形問題の復習をバランスよく繰り返し行っていく、苦手な分野を減らすとともに基礎力を高めていく。・年10回程度のテストを行い、テストの後、解き直しレポートを作成させるとともに、前回のテストの類題やワークの問題の類題を次のテストの一部で出題し、前回できなかった問題ができるようになったという学びの成果を実感させていく。
3年生	<ul style="list-style-type: none">・iPadやPCの活用による、映像やデジタル資料だけでなく、実物を具体的に提示したり、操作させたりしながら、問題に取り組ませることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図っていく。・日常の授業の中での教え合いの活動やいろいろな考え方を説明、共有する活動を今後も継続して取り入れていく。	<ul style="list-style-type: none">・今年度から取り組んでいる毎授業始めの計算ドリルで、既習事項の復習をバランスよく繰り返し行い、苦手分野を克服させ、基礎力を高めていく。・定期考査以外に、章のテストを必ず実施する。実施前に、章のまとめの課題を担当者が作成し、授業中はもちろん、自宅学習でも取り組ませ、その章の内容を定着させていく。

(4) 理科

【中学校】

理科における指導の重点

- ・授業の目的を明確にし、まとめを行うことで生徒に授業の見通しをもたせ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を展開する。
- ・ICT機器を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実をはかり、基礎的・基本的な知識を高めるとともに表現力の向上をはかる。
- ・実験・観察を通して、事物や現象のしくみを理解させるとともに、科学的に探究しようとする態度を養い、学習意欲を向上させる。

現状分析

教科指導上の課題

1年生

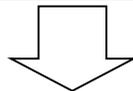
- ・一人ひとりの表現力を育成するため、自然事象を説明したり、自分の言葉でまとめたりする指導を行う必要がある。
- ・自らの課題に対して反復して学習に取り組む力（自己調整力）を育む指導を行う必要がある。

2年生

- ・基礎的な知識を定着させるために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な指導の充実を図る必要がある。
- ・理科に対する学習意欲を向上させる指導の工夫が必要である。

3年生

- ・自らの課題に対して反復して学習に取り組む力（自己調整力）を育む指導を行う必要がある。
- ・基礎的な知識を定着させるために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な指導の充実を図る必要がある。
- ・学習内容の定着を図るために、課題と実験・観察の要点をまとめたり、発表させたりする指導の充実を図る必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">・ICT機器を活用することによって、資料提示をすることやシミュレーション等を活用することで、抽象的な概念を視覚的に理解させ、ワークシートと連動し、要点をまとめさせる。・実験計画書を用い、課題とまとめの要点を明確にすることで、学習内容の把握をする力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none">・教科の横断的・系統的な理解を深めさせるために他教科での学習内容、小学校、2年生、3年生の内容も含め、確認する。・AI学習ドリルQubenaを活用することで、基礎的・基本的な内容の定着を図る。
2年生	<ul style="list-style-type: none">・ICT機器を活用し、実験方法や結果を示すことで、生徒に実験の意味や正しい手順・方法を理解させる。・個人のタブレットを活用し、気になった点や疑問点を調べさせる機会を設けることで、自ら探究しようとする力を身に付けさせる。・実験計画書を用い、課題とまとめの要点を明確にすることで、学習内容の把握をする力を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none">・AI学習ドリルQubenaやワークを活用することで、基礎的・基本的な内容の定着を図る。・毎時のはじめに前時までの復習を口答で確認することで、基礎学力の定着を図る。
3年生	<ul style="list-style-type: none">・ICT機器を活用することによって、資料提示をすることやシミュレーター等を活用することで、抽象的な概念を視覚的に理解させ、ワークシートと連動し、要点をまとめさせる。・実験計画書を用い、課題と実験・観察の要点をまとめることで、学習内容の定着を図る。・タブレットの録画機能を駆使し実験の全体像を把握させ、プレゼンテーションソフトや Google Jamboard の活用を通して、他者との相互理解を効率的に図り、自分の考えをまとめさせる。	<ul style="list-style-type: none">・毎時、前時までの確認を口頭試問で行い、本時までの流れを意識させることによって、系統的な理解を促していく。・教科の横断的・系統的な理解を深めさせるために他教科での学習内容、小学校、1年生、2年生の内容も含め、確認する。・AI学習ドリルQubenaを活用することで、基礎的・基本的な内容の定着を図る。

(5) 音楽科

【中学校】

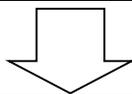
音楽科における指導の重点

- ・パート練習に話し合い活動を取り入れ、積極的に関わりながら練習に参加できるようにする。
- ・タブレットを活用し、自分の歌唱の様子を撮影してそれを分析することで、歌唱力向上を目指す。
- ・毎時間「学習の記録」を記入し、何を学び、何を身に付け、どのように表現していくのかを明確にし、学習への意欲向上を図る。

現状分析

教科指導上の課題

- (1年生)
- ・歌唱活動への意欲を鑑賞につなげる指導の工夫が必要である。
 - ・読譜力、楽典理論の知識を定着させるため、基本的な指導を丁寧に行う必要である。
- (2年生)
- ・主体的に学ぶ姿勢を育ませるために、ICTを活用した興味・関心を高める指導の工夫が必要である。
- (3年生)
- ・歌唱活動にも意欲的に取り組む生徒が増えたため、より魂を感じるような力強い表現ができるよう、指導を工夫する必要がある。
 - ・ICTを活用した協働的な学びを通じた、鑑賞や楽典理論の指導の工夫が必要である。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">・タブレットを活用し、自分の歌唱の様子を動画撮影をできるように指導し、それを分析することで歌唱力向上を目指す。・個別練習ができるよう、タブレットに歌唱活動の楽曲音源をアップロードし個々の練習を強化させる。・パート練習に話し合い活動を取り入れ、積極的に関わりながら練習に参加できるようにする。・楽典の理解を深め、活用できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・毎時間「学習の記録」を記入し、何を学び何を身に付け、どのように表現していくのかを明確にし、学習への意欲向上を図る。・自主的に「記録する」ことの習慣化を図る。
2年生	<ul style="list-style-type: none">・タブレットを活用し、自分の歌唱の様子を動画撮影してそれを分析することで歌唱力向上を目指す。・個別練習ができるよう、タブレットに歌唱活動の楽曲音源をアップロードし個々の練習を強化させる。・パート練習に話し合い活動を取り入れ、積極的に関わりながら練習に参加できるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・毎時間「学習の記録」を記入し、何を学び何を身に付け、どのように表現していくのかを明確にし、学習への意欲向上を図る。
3年生	<ul style="list-style-type: none">・タブレットを活用し、自分の歌唱の様子を動画撮影してそれを分析することで歌唱力向上を目指す。・個別練習ができるよう、タブレットに歌唱活動の楽曲音源をアップロードし個々の練習を強化させる。・パート練習に話し合い活動を取り入れ、積極的に関わりながら練習に参加できるようにする。・Google Classroom や SKYMENU を活用し、旋律の作成や発表を行う。	<ul style="list-style-type: none">・毎時間「学習の記録」を記入し、何を学び何を身に付け、どのように表現していくのかを明確にし、学習への意欲向上を図る。

(6) 美術科

【中学校】

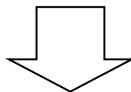
美術科における指導の重点

- ・制作活動を通じて創作活動の喜びを味わい豊かな感性を養えるように指導する。
- ・生徒自身が主体的に考えて取組を進め、多様な価値観を共有し合えるような機会をつくる。
- ・絵画、彫刻、デザイン、工芸、美術史、美術理論等の基礎知識を習得させる。

現状分析

教科指導上の課題

- (1年) 作業における時間配分のコントロールを意識させ、作品を確実に提出することを意識するように指導する必要がある。
- (2年) 構想の独創性と幅広い価値観を共有し、提出物遵守の意識をもつように指導する必要がある。
- (3年) 発想・構想の独創性を重視し、他者との価値観の違いを認め、提出物遵守の意識をもつように指導する必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">・各々の課題と目標をはっきりさせる。・各題材の導入時に見せる参考作品は多様なものを提示し、興味関心を抱かせる。・ICT 機器の活用によって、具体的なイメージの手助けをする。個別的な指導に力を入れ自らの創造性や興味関心を引き出せるよう助言していく。	<ul style="list-style-type: none">・伝わりやすい参考作品・説明プリント等を準備する。・鑑賞の機会を設け、制作への意欲向上を図る。
2年生	<ul style="list-style-type: none">・課題の目的を明確化し、計画的に作業をすすめられるよう働きかける。・各々が個性を大事にするように声かけをする。・タブレットを使って資料探しをする際に、自分の感性を優先させる大切さを伝えていく。	<ul style="list-style-type: none">・伝わりやすい参考作品・説明プリント等を準備する。・鑑賞の機会を設け、制作への意欲向上を図る。
3年生	<ul style="list-style-type: none">・各授業時間での課題をはっきり認識させ、生徒の興味を引き出せるよう多様な資料を用意する。・タブレットを使っての情報に頼りすぎることなく、画一的な作品にならないよう指導する。・個別指導では個々の能力に沿った表現で、創作の喜びを感じられるよう語りかけをしていく。	<ul style="list-style-type: none">・伝わりやすい参考作品・説明プリント等を準備する。・鑑賞の機会を設け、制作への意欲向上を図る。

(7) 保健体育科

【中学校】

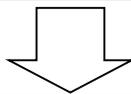
保健体育科における指導の重点

- ・目標やめあてを明確にして生徒に授業の見通しをもたせるとともに、振り返りを行うことで、学びの成果を実感できる授業の展開を行う。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学習意欲を向上させる指導法の工夫についての理解を深めることで授業改善に努める。
- ・生徒の実態や発達段階に応じて目標値を定め、体力向上に向けた授業を展開する。単元に合わせ、「体力向上月間」を意図的・計画的に実施し、健康の保持増進と感染症への正しい理解と予防に取り組もうとする実践的な態度の育成と体力の向上を目指す。

現状分析

教科指導上の課題

保健体育の授業を通して、思考力・判断力を高め、自身の力でPDCAサイクルを実行できる生徒を育成する必要がある。そのため、段階的な指導を考え、「できる」ものを増やしていくことから取り組み、主体的に学び合える授業を展開していく。また、実技の単元ではiPadを活用して、客観的な視点、スポーツ科学の視点から自身の技能、表現力を高め、「できた」という感覚を大切に、自己肯定感を養っていく。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">・学習カードを用いて、授業の振り返りを行うことにより、個々の課題を本人と教員が把握する。・iPadを用いて、動きの見本となる動画を提示する。また、生徒自身の動きをカメラ機能で撮影し観察することにより、客観的に自己や仲間の課題を捉えられるようにする。その上で、ペアやグループで教え合いの活動を展開したり、協働的に課題解決を図る場面を設定したりすることにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・単元によっては、小学校での積み重ねが不十分などところがあるので、基礎的・基本的な内容を繰り返し学習することにより、経験値を上げ、できた喜びを実感させていく。・技能の習熟度に差があるので、基礎的・基本的な内容を取り扱う際、仲間同士で交流する場面を設定し、すでにできる内容においてもアウトプットすることで、基礎的・基本的な内容の定着を図る。その上で、発展的な内容を提示し、スモールステップで課題に挑戦できるようにしていく。
2年生	<ul style="list-style-type: none">・学習カードを用いて、授業の振り返りを行うことにより、個々の課題を本人と教員が把握する。・単元の中に、ペアやグループで協働的に課題解決を図る場面を設定し、その解決の仕方を選択させることで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。その際、単元の内容に応じてICTを効果的に活用する。	<ul style="list-style-type: none">・学び合いやiPadを用いて、学習する楽しさを実感させていく。・生徒の実態にあった「できる」ものから取り組み、学習する意欲を高めてから「できない」ものが「できる」楽しさを実感させていく。
3年生	<ul style="list-style-type: none">・学習の振り返りと形成的な評価を充実させることで、主体的に学習に取り組む態度及び、思考力・判断力・表現力の育成を図る。・単元の中に、ペアやグループで協働的に課題解決を図る場面を設定することにより、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。その際、単元の内容に応じてICTを効果的に活用する。	<ul style="list-style-type: none">・iPadの動画を撮影を積極的に活用して、自分の体の使い方を客観的に観察することにより、思考力、判断力を働かせ、表現力を高めていく。・話し合い、グループ活動等でアクティブラーニングを積極的に実践していく。

(8) 技術・家庭科

【中学校】

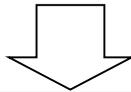
技術・家庭科における指導の重点

- ・実習・実技を通して学習内容を理解、体得していく指導を行う。
- ・目標やめあてを明確にして見通しをもたせ、振り返りを通して学びの成果を実感させる指導を行う
- ・学習形態の工夫や、生徒一人ひとりが主体的・対話的に学習できるようコーチング手法を用いて、考えて行動するよう指導する。

現状分析

教科指導上の課題

- (1年生) 実習・実技についてPDCA サイクルによる演繹法の学習スタイルを習得させる指導をする必要がある。
- (2年生) PDCA サイクルによる演繹法の学習スタイルを実践し、課題、問題解決に取り組む指導をする必要がある。
- (3年生) 異なった課題においてもPDCA サイクルによる演繹法の学習スタイルを実践する指導をする必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">・より分かりやすい実習マニュアルなどを提示し、個別最適なスモールステップのサイクルを確立する。・発表の場では協働的な学びを意識した視点を持ち、充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・より分かりやすい実習マニュアルづくりを行う。・クイズ形式により、問題点や目標の意識化を図る。・コーチングによる指導を実践する。・定期テスト振り返りによる自己分析をさせる。
2年生	<ul style="list-style-type: none">・一人1台端末等などを活用して、より分かりやすい実習マニュアルなどを提示し、学びの手順を明確にすることで、個別最適な学びを促す。・同じ作品を同じように作るために必要な課題を発見し、課題解決の手法や課題解決への見極めを協働的な学びで意識する。	<ul style="list-style-type: none">・より分かりやすい実習マニュアルづくりを行う。・クイズ形式により、問題点や目標の意識化を図る。・コーチングによる指導を実践する。・定期テスト振り返りによる自己分析をさせる。
3年生	<ul style="list-style-type: none">・様々な情報伝達方法の特徴をつかみ、個別最適な学びに調整するとともに、学びのフィードバックにより、協働的な学びも含めた自立的学習スタイルをもてるよう支援する。	<ul style="list-style-type: none">・より分かりやすい実習マニュアルづくりを行う。・クイズ形式により、問題点や目標の意識化を図る。・コーチングによる指導を実践する。

(9) 外国語科

【中学校】

外国語科における指導の重点

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、学習意欲を向上させる指導法の工夫についての理解を深めることで授業改善に努める。
- ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の指導を偏りなく行い、4技能の総合的な育成を目指す。
- ・コミュニケーションの目的や場面、状況を明確にした言語活動の充実を図る。
- ・一人1台端末やデジタル教材の効果的な活用の充実を目指し、日々の授業に取り入れる。

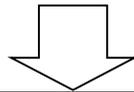
現状分析

区学力調査の結果分析

- (2年) 校内達成率は 63.6%であり、区の目標値には届いていない。領域別では場面英作文が、著しく低い数値であり、大きな課題である。
- (3年) 校内達成率は 63.7%であり、区の目標値には届いていない。「リスニング(さまざまな英文の聞き取り)」に課題があるといえる。

教科指導上の課題

- (2年) 語形・語法の理解を促す必要があるため、場面に応じて書く英作文の指導を適宜行っていく。
- (3年) 教科書や問題集のリスニングだけでなく、様々な形式のリスニング問題を取り扱い、指導していく必要がある。



授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 (基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等)
1年生	<ul style="list-style-type: none">・定期的に Speaking テストを行い、テストに向けての個人の課題を設定させ、テスト後に必ず振り返りを行うことで、次回までに身に付ける力を明確にしておく。・授業内で理解しきれない内容などは Qubena 等を活用することで、それぞれが理解できていない内容を取り組む。	<ul style="list-style-type: none">・コミュニケーション活動を多く取り入れることで、理解した内容や、身に付けたものを表現する場面を設けている。そうすることにより、学習の目標が明確になる。・小テストや記述の添削を行うことで一人ひとりの理解度を細かく把握する。
2年生	<ul style="list-style-type: none">・Qubena や Kahoot!、Google Slides を中心に iPad を利用する機会を適宜設けていく。特に Our Project では、各個人もしくはグループでのプレゼンテーション発表活動を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、学力向上を目指す。・日常の授業の中での相談活動や教え合い活動を通して、協働的な学びの機会を充実させていく。	<ul style="list-style-type: none">・1年次から継続してきた毎授業始めのリスニング活動で、「聞くこと」についての基礎力を高めていく。・教科書本文の内容理解を行った後に、積極的な音読活動を行うことで、本文内容や文法項目の定着を促す。・定期考査前に補充教室を行い、これまでの学習を整理し、活用する機会を確保する。
3年生	<ul style="list-style-type: none">・Speaking → Writing の活動を定期的に行う。Speaking ではペアで協力しながら言いたいことを伝える練習をさせる。ペアを変え、繰り返し練習すると共に、相手の話を聞くことで、様々な表現を知る機会を設ける。その後 Google クラスルームを活用して生徒各自が話した英文を提出させ、個別に添削し、修正させる。	<ul style="list-style-type: none">・リスニング問題に取り組む際のポイントを繰り返し伝え、正しく聞き取る力を付けさせる。高校入試の過去問や、各種検定の過去問等を用い、様々な形式のリスニング問題を実施する。・既習の語彙や語形・語法を復習する時間を定期的に設け、基礎的・基本的な知識の定着を図る。

(10) 特別の教科 道徳

【中学校】

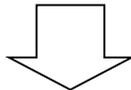
道徳科における指導の重点

- ・ 生命を大切に、他者を思いやる心を育てる。
あらゆる差別やいじめをなくし、多様性を認め合いながら人権を尊重する態度を育てるとともに、自他の生命を尊重する心情と判断力を育てる。
- ・ 公正さを重んじ、他者とともに生きようとする心を育てる。
特別支援学級との交流をはじめ、人との関わり合いの在り方を学び、よりよい人間関係を築く姿勢を養う。
- ・ それぞれの個を生かし、よりよい集団や社会を形成しようとする心を育てる。
道徳科の時間を要とし、学校教育全体を通して道徳性を育成する。さらに道徳授業地区公開講座をはじめとする授業公開を実施して、保護者や地域の人とともに、よりよい集団や社会を形成しようとする生徒の道徳的実践力を育成する機会を確保する。

現状分析

教科指導上の課題

- ・ 道徳的実践力を高めるため、教材と生徒自身の身近な生活を結び付けるような振り返りの機会を設定する必要がある。
- ・ 道徳的価値について、自分のこととして捉えることができるような指導の工夫が必要である。
- ・ 自分自身の考えを深め、行動をよりよく変えていこうとする道徳的実践力を高めるため、道徳の価値項目についての理解を深め、教材についての相互理解を深めていく必要がある。
- ・ 教師の指導上の課題としては、経験年数の浅い教員が多いため、彼らが教科の指導そのものに慣れず、困難を感じる場合があることである。主幹教諭、主任教諭をはじめとして、指導・助言を適宜行っていく必要がある。



授業改善プラン

具体的な授業改善案

- ・ 教材の内容によって、効果的にICT機器を利用する(Google Formsによる事前アンケートの実施、導入での資料提示、生徒の実態に応じた表現方法の選択等)。また、グループワークやSKYMENUによるグループやクラス内での意見交流を通して、言語活動の機会を充実させ、他者の意見に触れることで、自分自身の考えを深めさせる。そして、よりよく生きるために、自ら考え、判断し行動する意欲を高めていく。
- ・ 指導上の課題としては、学年内においてローテーションで授業を担当することで、互いの授業を参観し学び合う機会を設け、教材理解と授業展開の研鑽を深める。